

## 北海道社会学会ニュース

## H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局  
〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西7丁目  
北海道大学大学院文学研究院社会学講座  
Email : hsa.sociology@gmail.com  
http://www.hsa-sociology.org/ 郵便振替口座 : 02760-3-3085

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION  
Mari HIGUCHI  
Faculty of Humanities and Human Sciences, Hokkaido University  
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan  
Newsletter Editor: Hiroshi TAKADA  
URL <http://www.hsa-sociology.org/>

編集責任者：樋口麻里（庶務理事） 北海道大学大学院文学研究院 [m.higuchi@let.hokudai.ac.jp](mailto:m.higuchi@let.hokudai.ac.jp)  
TEL : 011-706-3021（研究室事務室）

## 第71回北海道社会学会大会について

品川ひろみ（研究活動委員長）

第71回北海道社会学会大会が2023年6月17日（土）、札幌学院大学新札幌キャンパスにおいてハイブリッドで開催されました。小内純子会員（札幌学院大学）を大会実行委員長として、大國充彦会員、高田洋会員の協力を得て無事に終了することができました。本大会の参加者数は、会員46名、非会員9名の55名、そのうち6名がオンライン参加となりました。昨年と比較しますと10名ほど多く参加されたこととなります。このように多くの皆さまにご参加いただいたのは、やはり3年ぶりに対面で学会大会が開催されたということ、それに加えてハイブリット開催であったことで、国内外の遠方からの参加が可能になったこともその要因だと考えられます。また、本大会では一般報告者数が12組と、第66回大会の13組に次いで多く、午前・午後ともに2会場を設けることができました。

午前の第I部会は、セカンドライフに関する4組の連続報告であり、現在の高齢化社会をテーマとした研究報告でした。第II部会は中国社会を対象とした研究報告が続きました。午後の第III部会では、中国の市民社会、日本の自治体の地域イベントに関するもの、最後の第IV部会は非正規雇用など労働問題に関する報告と、マレーシアの民族や宗教による社会的不平等をテーマにしたものと、多彩な報告になりました。

今回の報告者には大学院生、特に北海道大学の留学生が多かったため、同じ所属の方だけで一つの部会にならないよう、できるだけ分散するよう部会を組みました。そのため前述したように、部会内の報告テーマを絞ることができず、幅広いものとなりました。

そのような中で司会をお引き受けいただいた、梶井祥子会員（札幌大谷大学）、小内透会員（札幌国際大学）、新藤慶会員（群馬大学）には改めてお礼申し

上げます。

さて、大会シンポジウムは樋口麻里会員（北海道大学）の司会で「ケアの視点から問う日本の政治労働問題」と題して、お二人のシンポジストに報告いただきました。元橋利恵氏（大阪大学）には「ケア・フェミニズムの視点から考える『政治的なもの』——母親たちの語りから」、駒川智子会員（北海道大学）には、「ケアの視点から問う労働領域でのジェンダー平等——制度、時間、処遇、職場文化からの考察」と、ジェンダー研究において重要な視点であるケア・フェミニズムに焦点をあてた報告であり、大変興味深い内容でした。コメンテーターとしてご登壇いただいた高島裕美会員（名寄市立大学）には的確なコメントをいただき、お二人の報告を深めることができました。フロアからの質問もありましたが、終了後にある会員から「〇〇について質問してみたかった」という声が寄せられ、もっと時間を取ればさらに議論が深められたのではと振り返っています。大会終了後には、新入会員の紹介が行われ、和やかなムードに包まれました。最後に大國會長に閉会の辞をいただき、予定したスケジュールをすべて終えることができました。

改めて本大会を振り返りますと、3年ぶりの対面開催が決まった時は準備の上での緊張と、やっと平常の学会に戻れるという安堵の2つがありました。しかし始めてみますと会員の皆様の力で無事に本来の北海道社会学会大会に戻れた感があり、心から嬉しく思いました。今後もわたしたちの研究交流の場である学会大会が無事に開催できる社会であることを心から願っています。本大会の運営に関わっていただいた方々をはじめ、参加されたすべての皆さまに、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

## 第71回大会シンポジウム

「大会に参加して」

京都女子大学 中道仁美

今年度の大会シンポジウムは、家族社会学、労働社会学、教育社会学の3人の専門家により、「ケア」をキーワードに政治参画、労働環境の改善について報告と議論が行われた。

第1報告は、元橋利恵さんで「ケアフェミニズム」の視点から政治参画の課題について報告された。女性・ジェンダーを生きる者が身に着けやすいが、科学や学問に位置づけられてこなかった人間のケア活動に視点を当て、培われる思考、判断に価値を見出す。ケアとは広義では人間の基本的なニーズを満たす行為を、狭義では、育児、介護、介助、家事などをさす。

公的領域におけるケアレスモデルは、ケア女性の能力が低いとして、政治から排除する。ケアレスな女性だけが政治参加するのではなく、「ケアを中心にした民主主義を構想」していく必要がある。政治はケアを担う人（マザリング）の日々の営みに目を向けていく必要がある。「安保関連法に反対するママの会」への調査では、「母親こそ政治にふさわしい」と認識を改め、発信するようになったが、自身の行うケアを「わたし」の物語として語り、それが集団的に受容され、既存の支配的な枠組みを問い直していくことができるのかという。

第2報告では、駒川智子会員が、育児に関わる差別と不平等について、社会のあらゆる場面で、子育てすることに罰を与える child penalty（子育て罰）のような政治、制度、社会慣行、人びとの意識がある。だから、ケアの視点から企業の両立支援制度、時間管理、処遇を考察し、ケアを担う労働者が増すなかで生ずる職場の問題を考察し、ケアすること/されることを含んだジェンダー平等な職場文化の生成に必要な方途を見出したいという。

まず、育児休業制度の、取得期間の短さと男女格差、取得率の背景にある男女の賃金格差（補償される所得格差）を確認する。仕事と暮らしを応援する施策へ移行した企業への調査では、就労環境を整備し、誰もがケアすること/されることを前提にした雇用管理と職場文化の萌芽がみられたという。必要なのは、ケアとジェンダーを組み込んだ経営理念であり、それを具体化する雇用管理であるという。

これらの報告に対し、高島裕美会員から、ケアの範囲や、「ママ」をする中での能力の育成、「ママの会」の将来、政党からの勧誘などの質問が出された。また、両立支援と能力発揮施策には、適切な評価、育成能力の保障、適正な人員配置が必要である。育児の人員配置では関連部署から玉突き人事、場当たりの移動、誰もが自由設計できる勤務方法、事例企業の女性の動き、管理職意識、夫の転勤で辞める問題等、様々な質問が出された。フローからは、ケ

アによりフェミニズムの戦略はどのように変化したのか。母性なら既存の体制は維持し、マザリングなら既存の体制を超えるのか。ケアを担っていない人をどう説得するのか。一方、ケアというのは、特殊な関係ではないか。相手はよく知っている人ではないか。唯一無二のひとで対象を取り換えることはできない。自分のケアも大事(過労による自死の問題があるから)である。

最後に、私見を少し述べたい。フェミニズムは、産めば「母」になるのか、「母」になれない女性たち、子を虐待する「母」について議論してきた。ケアの倫理は人間のケア活動によって培われるものに意義を見出すが、ケア活動は誰もができるものだろうか。また、フェミニズムはケアと無償労働の関係を解き明かしたが、child penalty（子育て罰）はその延長上にあるといえよう。ケアは「女性職」だから低賃金で担われてきた。職場は、政治の場と同様にケアレスな労働者を求めてきた。働く女性を支えてきたケア労働者も働く女性である。育児から解放されたい気持ちとマザリングの関係は？温故知新のフェミニズム、いろいろ考えさせられたシンポであった。

## 第71回北海道社会学会総会について

(第71回北海道社会学会総会議事抄録)

日時：2023年6月17日(土) 16:10~17:00

場所：札幌学院大学(新札幌キャンパス)

方法：対面とオンラインのハイブリッド開催

議長：梶井祥子会員

## 報告

## 1. 編集委員会報告(高田委員長)

『現代社会学研究』第36巻は、特集(序文+論文3)、自由投稿2、追悼文1の構成となった。印刷部数は、第35巻に引き続き160とした。

『現代社会学研究』第36巻のJ-STAGEでの公開は、2023年8月1日を予定している。

執筆要項について、実態に合うように改訂することを次期編集委員会で継続審議する。

書評について、候補の書籍があったが掲載できなかったので次期編集委員会に推薦する。

## 2. 研究活動委員会報告(品川委員長)

第71回大会の参加者は、会員46名・非会員9名。

## 3. 庶務報告(工藤庶務理事)

## 1) 会員異動(2022年6月から2023年6月まで)

新入会員5名・退会会員3名・自然退会1名で、計1名増。6月17日現在の会員数は117名。

## 2) 学会研究奨励金

応募0件。

## 3) 2022年度理事会開催

計3回およびメールによる持ち回り理事会を複数回開催。

## 4) 学会ニュースの発行

計4号(132~135号)発行。

4. 役員選挙結果について(平沢選挙管理委員長、代理:工藤理事委員)

2023年5月12日に開票作業を行い新役員が決定した。

5. 次期理事会について(高田次期会長)

会長:高田洋

編集委員会:上山浩次郎(委員長)、原俊彦、角一典、佐々木千夏\*、山崎貴史\*

研究活動委員会:西浦功(委員長)、西脇裕之、高島裕美\*、新藤慶\*

庶務担当理事:樋口麻里

会計担当理事:駒川智子

監事:梶井祥子\*、工藤遥\*

(敬称略。\*は理事外。新役員の任期は大会翌日より2年後の大会当日まで)

6. 次回大会の開催校について(大國会長)

新会長と相談の上、各大学に協力を依頼し早めに決定していきたい。

議題

1. 2022年度決算報告・監査報告(野崎会計担当理事・会計監事):資料1(2022年度決算報告)

提案の通り承認された。

2. 2023年度予算案(野崎会計担当理事):資料2(2023年度予算案[修正版])

一部修正のうえ、承認された。

第3回理事会報告

日時:2023年6月17日(土)11:50~12:30

場所:札幌学院大学(新札幌キャンパス)

方法:対面とオンラインのハイブリッド開催

出席者:大國会長、高田新会長、品川・平沢・櫻井・野崎・工藤の各理事、小内・原の各監事、

上山・角・西浦・西脇・樋口・駒川の新理事、梶井新監事。

報告

上記、総会と同じ。

編集委員会より(上山編集委員長)

『現代社会学研究』第37巻(2024年6月発行予定)の原稿募集について

### ① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第37巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局(hsa.sociology@gmail.com)に宛ててメールの添付書類として送信してください。その際の添付ファイル名は「投稿申込〇〇.docx」(〇〇には申込者の氏名を入れる)としてください。申

込の締切は、8月31日(木)まで(同日必着)とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2023年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

審査用原稿は「執筆要項」の指定に基づくA4サイズ16枚以内のPDFファイルとして作成し、10月31日(火)必着で学会事務局宛てメールに添付してお送りください(従来は、投稿原稿3部を郵送していただきましたが、これは不要です)。その他の詳細については、学会ホームページに掲載されている最新の「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。

### ② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第37巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作(会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則)で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報(著者名、書名、発行年、版元名)を学会事務局(hsa.sociology@gmail.com)までお寄せください。自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決定いたします。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日(火)必着です。情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡いたします。

### ③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながら、ある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量はリプライがつく場合は6,000字程度、つかない場合は3,000字程度とします。締切は10月31日(火)必着で、学会事務局(hsa.sociology@gmail.com)までメール添付でお送りください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.docx」ないし「往来投稿申込〇〇.docx」(〇〇には申込者の氏名を入れる)としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。「往来」の投稿が少ない場合など

には、編集委員会から個別にご執筆をお願いすることもあります。その折にはどうかよろしくご願ひ申し上げます。

『現代社会学研究』のJ-STAGEへの掲載について  
『現代社会学研究』のJ-STAGEへの掲載は、発行同年度の8月初めを目処に行っています。

第36巻は8月1日付で既に公開済み。

会員異動（2023年7月末まで）

[略]

会員情報の更新について

住所や所属が変更になったときは、メールで学会事務局（hsa.sociology@gmail.com）までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。ご協力をお願いいたします。

メールアドレスの登録について

年3回分の学会ニュースはメールでのみお送りしています。これまで電子メールを使用していない会員には、すべてのニュースを個別郵送していましたが、事務局業務軽減のため、次回のニュース(No.137)以降は他会員と同対応とさせていただきます。メールアドレスのご登録にご協力をお願い申し上げます。ご登録は学会事務局（hsa.sociology@gmail.com）まで、ご連絡をお願いいたします。